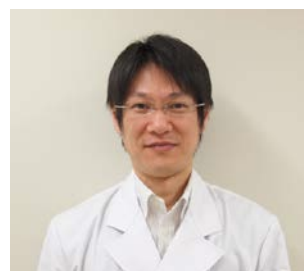


腎臓専門医・透析専門医研修ネットワークプログラム

1 はじめに

「静岡県内医大関連施設連携による腎臓専門医・透析専門医教育プログラム」は、静岡県内浜松医科大学関連の日本腎臓学会研修施設/日本透析医学会教育関連施設が連携して実施するプログラムで、腎臓専門医・透析専門医を養成するために作成し新専門医制度にも対応しています。是非とも、積極的なご応募を期待しております。



プログラムリーダー 浜松医科大学医学部 内科学第一講座 講師 安田日出夫

2 目的

内科専門医および腎臓専門医・透析専門医の取得を目指します。

「後期研修で内科専門医取得を目指す」 および「内科専門医取得後あるいは既に多くの経験を積まれた中堅医師の方が腎臓専門医・透析専門医取得を目指す」ことを目的とします。さらに、県西部地区を中心とした浜松医科大学関連病院の複数の病院を経験し、関連する医療者とのネットワークの構築を通して静岡県内で腎臓内科医として質の高い医療を担う人材の育成を目標としています。

3 目標

① 資格取得

日本内科学会認定医および総合内科専門医の受験資格を得る

日本腎臓学会腎臓専門医試験受験資格を得る

日本透析医学会専門医試験受験資格を得る

② プログラム内容の到達目標(各学会研修カリキュラムに準拠)

- (1) 内科医としての広い知識と経験
- (2) 腎臓の生理学、病理学の基礎的知識
- (3) 腎炎、糖尿病性腎症、膠原病など、腎疾患一般の診断と治療ができる
- (4) 腎生検の手技と腎生検標本がよめる
- (5) 慢性腎不全患者の管理、透析患者の導入、管理ができる（シャント術を含む）
- (6) 急性腎不全患者の診断治療ができる
- (7) 水・電解質代謝異常、酸塩基平衡異常の診断と治療ができる
- (8) 経験症例の研究会および関連学会での発表

4 特徴

- ① 浜松医科大学を中心として「臨床中心のコース」と「研究を含むコース」を用意した研究・留学など将来を見据えたステップアップも視野に入れたプログラムです。

- ② 日本内科学会、日本腎臓学会、日本透析医学会への参加・発表を積極的に行うとともに、静岡県下の本プログラム会員が中心をなす静岡腎セミナー（年2回）、静岡腎不全研究会（年2回）に積極的に参加・発表することで診療/腎臓学のステップアップを目指す。

5 研修カリキュラム

日本腎臓学会研修施設/日本透析医学会の研修条件に準じます。

「臨床中心のコース」では、原則として1年を単位として、2つ以上の病院をローテートしていただきます。「研究を含むコース」では、浜松医科大学での研修が中心となります。

① 臨床中心のコース （4年間）

1年目

- 静岡県内研修実施施設での内科ローテーション 1年
- ・頻度の多い腎疾患一般の研修

2-3年目

- 静岡県内研修実施施設での腎臓内科 1-2年間
- ・頻度の多い腎疾患一般の研修
- 浜松医科大学附属病院での腎臓内科医としての臨床研修 1-2年間
- ・頻度の多い腎疾患の基本の学習 ・急速進行性腎炎、その他、特殊な腎疾患の臨床
- ・水電解質代謝の学習 ・腎生検・シャント作成技術の習得

3-4年目

- 静岡県内研修実施施設での慢性透析患者の管理研修 1-2年間
- ・慢性透析患者の管理、合併症の学習

② 研究を含むコース （7年間）

1年目

- 静岡県内研修実施施設での内科ローテーション 1年
- ・頻度の多い腎疾患一般の研修

2-3年目

- 静岡県内研修実施施設での腎臓内科 1-2年間
- ・頻度の多い腎疾患一般の研修
- 浜松医科大学附属病院での腎臓内科医としての臨床研修 1-2年間
- ・頻度の多い腎疾患の基本の学習 ・急速進行性腎炎、その他、特殊な腎疾患の臨床
- ・水電解質代謝の学習 ・腎生検・シャント作成技術の習得

4年目から4年間

- 大学での研究センターの期間 4年間
- ・希望により、臨床研究、浜松医科大学第一内科での研究、基礎医学教室での研究などが可能（研修期間中に大学院に入学、もしくは医員として勤務して博士号取得が可能）

6 研修例

前記5 研修カリキュラムに研修モデルコースも記載しました。これらのコースは典型的なコースを設けていますが、腎臓内科医をめざす医師1人1人の将来展望に基づき必要な修練を行うことがもっとも大切であると考え、個人個人の希望に応じたプランの作成に協力することが可能と考えています。

7 研修病院群（症例実績を含む）

① 研修実施施設の基準

- (1) 日本腎臓学会研修施設/日本透析医学会教育関連施設
- (2) 腎炎患者、糖尿病性腎症患者などの入院患者が年間50例以上、または維持透析患者が50例以上
- (3) 日本内科学会、日本腎臓学会、日本透析医学会等への積極的な参加と学会発表
- (4) 定期的に症例検討会を実施
- (5) 高度な専門性と高い倫理性を有した医師の育成という、同一の理念に基づき診療・教育を実施

② 研修病院群の紹介

(1) 富士宮市立病院内科

院長 米村克彦 1980年卒 医学博士

所属学会：日本内科学会、日本腎臓学会、日本透析医学会、日本アフェレシス学会、
日本急性血液浄化学会、日本静脈経腸栄養学会、日本プライマリケア学
会、日本骨粗鬆症学会

資格：日本内科学会認定医、日本内科学会指導医、日本腎臓学会専門医、日
本腎臓学会指導医、日本透析医学会認定医、日本透析医学会指導医、
日本アフェレシス学会認定医

本院は富士宮市唯一の総合病院です。市民の腎臓病診療の大半を担っているため多様な症例が集まってきます。現在、腎臓内科・透析専門医2名、専門医を目指す4～7年目の医師4名で診療にあたっています。適応のある腎疾患では腎生検を積極的に行い組織診断と適切な治療を行っています。慢性腎不全では保存期の管理から血液・腹膜透析の導入・維持を行います。また、敗血症や多臓器不全症例に対する急性血液浄化療法や、アフェレシス療法、電解質異常・酸-塩基平衡異常の病態解明なども積極的に行っています。腎臓内科・透析専門医の資格取得のために必要な症例の殆どを経験することが可能となっています。

症例実績（平成23年度）

入院患者

慢性腎不全 162例、慢性糸球体腎炎 11例、膠原病（成人スティル病、シェーグレン症候群、多発性筋炎、リウマチ性多発筋痛症、関節リウマチ、SLE） 10例、急性腎不全 12例、ネフローゼ症候群 5例、急性間質性腎炎 1例、電解質異常 34例、尿路感染症 29例、高血圧精査 7例、悪性高血圧 0例、ANCA関連血管炎 7例、サルコイドーシス 0例、被嚢性腹膜硬化症 0例。

血液浄化療法

血液透析回数 5685 回、血液濾過透析 616 回、新規導入患者 63 名、他院からの合併症治療患者 126 名、持続的血液濾過透析 83 回、エンドトキシン吸着療法 28 回、白血球除去療法 10 回、単純血漿交換 25 回、腹水濾過濃縮 22 回

(2) 静岡済生会総合病院

部長 戸川 証 1994 年卒 医学博士

所属学会：日本内科学会、日本腎臓学会、日本透析医学会、国際腎臓学会、アメリカ腎臓学会

資格：日本内科学会総合内科専門医、日本腎臓学会専門医・指導医、学術評議員、
日本透析医学会専門医・指導医

当院は静岡市における総合病院とし多くの腎臓疾患の診療にあたっています。地域の医療機関との連携のもとに初期の腎疾患から末期腎不全まで様々な症例を経験することができます。腎生検も積極的に行っており、組織診断から治療法選択に至るプロセスを学ぶことができます。約 60 名の維持透析患者の診療はすべて腎臓内科が担当しており、集中治療室での急性期の血液浄化療法も当科が行っています。当院腎臓内科では、通常の自己血管内シャント作製だけでなく、人工血管を用いたシャント作製も行っています。昨年度よりカテーテルを用いた血栓除去術やシャント狭窄例に対する PTA などの症例数も増加し、腎臓内科医が習得すべきバスキュラーアクセス関連手技については短期間に多くの症例を経験することができます。また、週 1 回のカンファレンス、抄読会を通じ、腎臓疾患全般にわたり深い知識と経験を積むことができます。学会、研究会での発表も積極的に行い腎臓病学、透析医学への貢献に努めております。

症例実績（平成 25 年度）

入院患者 456 名

新規透析導入 40 例、通院維持透析患者数 59 例、バスキュラーアクセス手術数 60 例、PTA および血栓除去術 135 例

(3) 焼津市立総合病院腎臓内科

腎臓内科科長 大浦正晴 1986 年卒

所属学会：日本内科学会、日本腎臓学会、日本透析医学会、日本アフエレーシス学会
日本リウマチ学会 日本化学療法学会 日本環境感染学会

資格：内科学会総合内科専門医、内科学会指導医、透析学会専門医、
リウマチ学会専門医、化学療法学会認定医、ICD臨床研修指導医

当院は静岡市に隣接する、中西部地区にある 471 床の総合病院です。2011 年度より病院管理者に菱田明先生（腎臓学会指導医、透析学会専門医）を迎え、2014 年度からは腎臓内科 4 人、さらに総合内科 4 人の新体制となっています。腎臓内科の医師数の増加に伴い、現在入院患者

数、外来患者数の増加が見られています。従来慢性腎不全の透析導入は当院泌尿器科が行っていましたが（年間35名前後）、2013年度からは腎臓内科、総合内科にて主に透析導入を行っています。院内各科の連携が非常によいので、他科で発症した腎疾患のコンサルトを通じての研修も多く経験できます。当院の役割として地域医療に応える必要があります。したがって専門領域の疾患だけでなく、多彩な疾患に接することが可能です。また内科疾患の病院窓口として、地域の先生方と連絡を密にして総合内科と協力して診療を行っています。学会費補助（年1学会）、学会出張費支給（年2回）などの勉学を支援する体制は整っています。

診療実績（2014年度）入院患者501名

慢性腎不全（保存期）58例 慢性腎不全（透析導入）22例 、慢性腎不全（透析合併症）29例
慢性糸球体腎炎14例、ネフローゼ症候群8例、急性腎不全20例
急速進行性腎炎（合併症も含む）14例 薬物中毒4例 電解質異常18例
腎盂腎炎（単純性）53例 膠原病 2例
エコーガイド下腎生検 22例

(4) 藤枝市立総合病院腎臓内科

副院長、腎臓内科長、透析室長 山本龍夫 1980年卒 医学博士

所属学会：日本内科学会、日本腎臓学会、日本透析医学会、日本高血圧学会、国際腎臓学会、アメリカ腎臓学会

資格：日本内科学会（認定内科医・総合内科専門医）、日本腎臓学会（認定腎臓専門医・指導医・評議員・編集委員会委員・Clinical Experimental Nephrology, Associate Editor）、日本透析医学会（認定専門医・指導医）、日本高血圧学会（指導医）、日本医師会認定産業医、浜松医科大学臨床教授、臨床研修指導医

当院は急性期および専門医療を担う35の診療科と564の入院病床を有する総合病院で、平成27年4月には救急センターを新規開設します。腎臓内科は平成26年度から常勤医体制となり、原発性腎疾患から糖尿病、高血圧、膠原病、血管炎などに関連した続発性腎疾患に至る幅広い分野の腎臓病診療を、腎生検での病理診断も含めて担当しています。地域医療の分野では志太医師会とCKD(chronic kidney disease; 慢性腎臓病)病診連携、院内では看護師、管理栄養士を交えたCKD指導と栄養指導体制を構築しています。

透析診療は、腎臓内科、泌尿器科、血管外科の連携による透析導入、維持透析管理、自己血管内シャント造設、人工血管（グラフト）留置、動脈表在化、PTA、CAPDはもとより、救急室経由や入院患者に発症したAKI(acute kidney injury; 急性腎障害)、近隣透析センターからの維持透析患者の合併症に至るまで、持続的血液濾過透析(CHDF)、血漿交換(PE)、血漿吸着(PA)、血液吸着(HA)などの急性期の血液浄化療法も含めて内科系から外科系に渡る院内のチーム医療の一員として診療にあたっています。そして、当院は循環器内科、血管外科、心臓外科が充実していますので、心腎連関としてCKDや維持透析患者の生命予後を左右するCVD(cardiovascular disease; 心血管系疾患)合併症に対する専門医療の研修もできます。

このような日常医療における指導は勿論のこと、学会、研究会にも積極的に参加、発表し、学会報告や論文をまとめることも含めて腎臓専門医、透析専門医への集学的な研修が出来るよう努めています。

平成 25 年度：血液浄化療法関連の診療実績

血液透析 6744 回、新規透析導入 23 例、持続的血液濾過透析 212 回、血漿交換 9 回、顆粒球除去療法 212 回

(5) 磐田市立総合病院 腎臓内科

指導医：古谷隆一（副病院長、腎臓内科部長） 1984 年卒 医学博士

深澤洋敬（腎臓内科科長） 1994 年卒 医学博士

所属学会：日本内科学会、日本腎臓学会、日本透析医学会、日本高血圧学会、国際腎臓学会、アメリカ腎臓学会

資格：日本腎臓学会（専門医・指導医）、日本透析医学会（専門医・指導医）、日本内科学会（認定医・総合内科専門医・指導医）

当院は中東遠地区の腎疾患の基幹病院であり、タンパク尿から透析療法までの腎疾患の診療（腎移植は除く）を行っています。

腎疾患は他の疾患と密接に関連しているので、他領域の知識が必要です。このため、内科全般のローテーションを行った後に腎臓内科医としての専門研修を開始します。

外来では、タンパク尿、血尿といった早期腎疾患から保存期腎不全までの診療を行います。病棟では、腎生検、シャント作成など腎臓内科医として基本的なことを習得するだけでなく、急性腎不全などの疾患の診療を行います。そして、腎センターでは慢性維持透析患者の管理を行うだけでなく、急性血液浄化療法が必要な患者（術後や循環器疾患に併発した急性腎不全、劇症肝炎、神経変性疾患など）の診療を行います。

指導医と毎朝ラウンドをして短期的な治療方針の確認を行い、週 1 回のカンファレンスではより深い議論を行い患者の病態解明、治療方針の決定をしています。

また、日常診療だけでなく、週 1 回抄読会を行い新しい知識を習得するように努めています。そして、症例報告、臨床研究などの学会発表や論文報告を積極的に行っています。

(6) 聖隷浜松病院 腎臓内科・腎センター

指導医：

腎臓内科部長 兼 腎センター長 磯崎泰介 1984 年卒 医学博士

腎臓内科主任医長 鈴木由美子 1997 年卒

腎臓内科主任医長 三崎太郎 1999 年卒 医学博士

所属学会：日本内科学会、日本腎臓学会、日本透析医学会、日本高血圧学会、日本糖尿病学会、日本静脈経腸栄養学会、国際腎臓学会、米国腎臓学会 (ASN) など。

資格：日本内科学会・日本腎臓学会・日本透析医学会 指導医／専門医、日本病態栄養学会認定日本病態栄養専門医、日本高血圧学会指導医、労働衛生コンサルタント（保健衛生、厚生労働省認定）など。

当科は日本内科学会・日本腎臓学会・日本透析医学会の認定施設で、主に浜松医大第一内科の支援を受けていますが、学閥はなく（6 大学出身者で構成）、院内各科の垣根も低いいため楽しく研修ができます。腎生検による腎炎の組織学的診断と治療、保存期慢性腎臓病（CKD）の診断と治療、血液透析用バスキュラーアクセス（VA）作成手術、血液透析（HD）・腹膜透析（PD）導入と慢性期ケア、急性腎障害（AKI）の診断と治療、各種血液浄化療法による集中治療など幅広い経験ができます。CKD 多職種チーム医療・病診連携と NST（栄養サポートチーム）による栄養療法にも力を入れ、臨床研究・学会発表・論文や医学書作成など多くの実績を有し、全国的にも注目されています。当科独自の取り組みとして、医師・管理栄養士・透析看護師が 1 カ所集約して診療する「ワンストップ CKD 外来」、医師・薬剤師・管理栄養士による集団指導「腎臓いきいき教室」（月 1 回）、病態が一目でわかる「腎臓いきいき手帳」、タブレット端末による検査・治療の説明、等を行っています。近年は、IgA 腎症発症と口腔内細菌との関連性を検討し（三崎主任医長ら）、ASN 演題や英文論文に採択され注目されています。当科では、チーム医療による当番制（休日当番や透析業務など）・当直明け休実施などにより、勤務の on/off のメリハリをつけ、ワーク・ライフバランスに配慮しています。当科研修で日本内科学会、腎臓学会、透析医学会の専門医取得が可能です。現在当科には、腎臓内科後期研修医 2 名・通修医 1 名が在籍し、希望により不定期で内科ローテーション研修医が回っています。当科出身者の進路は、教育・研究職（医学部など）、急性期病院（副院長、腎臓内科部長など）、開業など幅広いです。

当科成績（2013 年）：外来 CKD 患者 1500 名（かかりつけ医 250 名との病診連携による）、入院 219 名/年、新規紹介患者 394 名/年、腎生検 62 件/年、内シャント造設術 60 件/年、導入 HD 患者 82 例/年、維持 HD 患者 93 名、維持 PD 患者 2 名、出張透析（ICU, CCU 等） 227 件/年、特殊血液浄化療法 294 件/年。

（7）聖隷三方原病院腎臓内科

腎臓内科部長 松島秀樹 1989 年卒 医学博士

腎臓内科医長 杉浦剛 1997 年卒

所属学会：日本内科学会、日本腎臓学会、日本透析医学会

資格：日本内科学会認定内科医、日本腎臓学会認定専門医・指導医、日本透析医学会認定医・指導医、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会認定施設

当院は病床数 934 床を有する浜松市北部の基幹病院であり、地域医療支援病院、救急指定病院、地域がん診療連携拠点病院等の認定を受けていて、腎疾患や透析の分野においても症例数は比較的豊富に有ります。また、精神科救急医療基幹病院や結核指定医療機関にも指定されており、精神科病棟及び結核病棟を有する透析可能な施設として、様々な症例を経験することも出来ます。希望があれば各診療科へのローテーションも可能です。医師が働きやすかつ長く勤務できるような職場環境にも便宜をはかってきており、学会費や出張旅費の補助も充実しています。

年間症例数は、腎生検 30 例前後、バスキュラーアクセス形成手術 60～70 例、血液透析導入 50～70 例、他院からの合併症を有した透析患者の受け入れ 100～130 例、および常時 100 名前後の維持透析患者の管理を行っています。

(8) 浜松医療センター 腎臓内科

科長 大石和久 1981 年卒 医学博士

所属学会：日本内科学会、日本腎臓学会、日本透析医学会、日本リウマチ学会、国際腎臓学会、米国腎臓学会、日本高血圧学会

資格：日本内科学会認定医、日本内科学会総合内科専門医、日本内科学会指導医、日本腎臓学会専門医、日本腎臓学会指導医、日本透析医学会専門医、日本透析医学会指導医、日本リウマチ学会専門医、日本医師会認定産業医、日本高血圧学会指導医

当院は地域医療支援病院として H25 年度紹介率が 87.0%と極めて高く、開業医の先生方からの紹介が多いため症例が豊富です。腎臓内科は透析療法科を兼務しています。当科の医師 2 名が日本腎臓学会と日本透析医学会の専門医で、また、総合内科専門医でもあります。また、当科の医師 1 名は日本リウマチ学会の専門医でもあり、膠原病に合併した腎疾患の症例も豊富です。腎生検から透析導入まで幅広く腎疾患を研修できます。腎生検は年間 20－30 件、内シャント手術は年間 80－90 件で内シャント手術はほとんどが透析導入時の手術です。

透析ベッドは 33 床あり、透析は通常の血液透析のほか、血液濾過(HF)、血液濾過透析(CHDF)、血漿交換、血漿吸着、血液吸着、持続血液濾過透析(CHF)なども必要に応じて行っております。透析は、総合病院の特色をいかし、近隣の透析施設からの整形外科疾患、虚血性心疾患、心臓血管外科症例、脳血管疾患、一般外科手術症例、その他入院の必要な透析患者の透析を担当しております。救命救急センターでの血液浄化も当科が行っています。

水電解質異常、酸塩基平衡異常のコンサルトも当科が受けております。注意深い観察により水電解質や酸塩基異常のデータから患者の隠れた病気が明らかになることもあります。当科では腎臓から全身をみることができ、全身から腎臓をみることができる医療を目指しております。

当院は診療科間の垣根がないため気楽に他科に相談できる環境にあります。他科を研修時に短期間当科での研修も可能です。

(9) 浜松医科大学 第一内科/血液浄化療法部

腎臓内科診療科長、第一内科 講師 安田日出夫 1995 年卒 医学博士

所属学会：日本内科学会、日本腎臓学会、日本透析医学会、国際腎臓学会、欧州腎透析移植学会、米国腎臓学会、日本急性血液浄化学会

資格：日本内科学会（認定医、総合内科専門医）、日本腎臓学会（専門医、評議員）、日本透析医学会（専門医）、臨床研修指導医、OSCE 外部評価者

血液浄化療法部 病院教授（部長） 加藤明彦 1985 年卒 医学博士

所属学会：日本内科学会、日本腎臓学会、日本透析医学会、国際腎臓学会、米国腎臓学会、欧州腎透析移植学会、日本病態栄養学会、日本静脈経腸栄養学会、日本臨床薬理学会、日本急性血液浄化学会、日本医工学治療学会

資格：日本内科学会（認定医、総合内科専門医、指導医、東海地方評議員）、日本腎臓学会（専門医、指導医、法人評議員）、日本透析医学会（専門医、指導医、評議員）、米国腎臓学会フェロー（FASN）、日本病態栄養学会（病態栄養専門医、

代議員)、日本医工学治療学会(評議員)、日本臨床薬理学会(評議員)、OSCE 外部
評価者、日本腎臓財団 透析療法従事職員研修 運営委員、雑誌「臨床透析」 編
集委員、雑誌「Nutritional Care」 編集同人、日本腎臓学会研修施設、日本透
析医学会認定施設 日本内科学会認定医制度教育病院

あらゆる腎疾患の診断と治療が可能な設備を整え、日本内科学会(認定医、総合内科専門医、
指導医)、日本腎臓学会(腎臓専門医、指導医)、日本透析医学会(専門医、指導医)は、いず
れも常時複数名が資格を有している。

特に、慢性腎炎の診断と治療、慢性腎臓病(糖尿病性腎症、腎硬化症)の進行防止、急性腎
障害(ICU での管理も含む)、水電解質異常、透析患者の合併症の治療などに豊富な経験を持
つ。研修医と指導医がペアとなって診療に当たっており、患者への食事、運動、日常生活など
の指導、教育等に十分な時間をさけることも特色の一つである。

腎炎、ネフローゼに対しては腎生検にて診断、方針決定後に免疫学的治療を行っている。他
院から紹介されてくる難治症例も多いが、新しい治療法も積極的に導入し多くの例で効果をあ
げている。糖尿病、SLE や強皮症などの膠原病、アミロイドーシスなどで腎症を発症した場合
には、主に当科で治療を行っている。慢性腎臓病(CKD)に対しては、保存期の進行防止をテ
ーマにかかげ、看護師、栄養士と共に低蛋白食などの食事療法に取り組んでいる。末期腎不全
には血液透析、血液濾過、CAPD(持続携帯腹膜透析法)を行ない、患者の社会復帰に役立って
いる。維持透析患者は、関連病院から合併症の治療や眼科、耳鼻科、外科など他科での手術の
ために入院してくる例も多い。水電解質代謝異常、高血圧の病態の解明と治療にも力を注いで
おり、学会報告も多く行っている。

特定疾患・高度な医療として末梢血幹細胞採取 白血球・顆粒球除去装置 血漿交換用装置
持続緩徐式血液濾過装置を実施している。

主要手術や治療法の実績

検査・治療法（術式等）・件数	平成 24 年度
腎生検	46
内シヤント造設術	37
血液透析	2699 (285 人)
血漿交換	31 (6 人)
持続緩徐式血液ろ過（CHDF）	390 (48 人)
白血球除去・顆粒球除去療法（LCAP・GCAP）	58 (6 人)
LDL 吸着療法	0 (0 人)
末梢血幹細胞採取	9 (6 人)
エンドトキシン吸着	40 (22 人)

主要疾患の治療実績

疾患名/件数	平成 24 年度
慢性糸球体腎炎	40
ネフローゼ症候群	6
慢性腎不全	40
尿毒症（血液透析）	49
ANCA 関連腎炎・血管炎	10
急性腎不全	4
ループス腎炎	8
多発性嚢胞腎	3
アミロイドーシス	0
サルコイドーシス	0
間質性腎炎	4
電解質異常	2

8 研修期間（*5.研修カリキュラムを参照）

- ① 臨床中心のコース（4年間） ② 研究を含むコース（7年間）

9 プログラム参加の要件

次の要件を満たす者

- ①内科専門医、腎臓専門医・透析専門医取得の意志のあること。
②2年間の卒後臨床研修が終了していること。

及び、

- ③一般内科研修を24ヶ月以上終了していること

（卒後臨床研修期間中の内科研修期間を含める）

（卒後3年以上経過し、一般内科1年以上の経験が有って、腎臓内科医を目指す者も可）

2年間の卒後臨床研修のみ終了した時点で、将来このプログラムを選択することの希望が明確な者に対しては、静岡県内の一般内科研修病院を紹介することは可能である。一般内科研修終了後このプログラムに入ることになる。

10 処遇

- ① 身分保証：身分（給与、福利厚生、事故発生時の責任など）は研修を受けるそれぞれの施設に属します。身分は原則常勤（大学院入学者はこの限りではない）。
- ② 勤務期間は原則最低各病院1年

11 プログラム終了後の進路

① 県内・外病院への就職の件

県内の上記研修病院（大学病院を含む）での腎臓内科医として勤務を希望する者については、各施設の定員の状況に応じて希望に沿った病院をプログラム運営委員会が対応する。希望病院に定員の予備がない場合も、他の病院に腎臓内科医として紹介され就職の道が用意されている（定員の問題があるため、確約は困難であるが、研修コースをまじめに終了した者については、県内いずれかの病院に紹介は可能。また、このネットワークによって将来的に研修施設間の移動も可能）。

② 大学院入学の件

このコースの中で腎臓の臨床研究、基礎研究などを希望する者は、浜松医科大学大学院への入学も可能である。

③ 海外留学の件

浜松医科大学附属病院での研究を終えた後、外国での研究留学を希望する者には留学も紹介可能である。

12 プログラム運営委員会

- (1) プログラムの管理：本プログラムは研修実施施設の責任者の合議で管理する。

研修実施施設/責任医師（腎臓内科科長あるいは当該責任者）

富士宮市立病院： 米村克彦

静岡済生会総合病院： 戸川証

焼津市立総合病院： 大浦正晴

藤枝市立総合病院： 山本龍夫

磐田市立総合病院： 古谷隆一

聖隷浜松病院： 磯崎泰介

聖隷三方原病院： 松島秀樹

浜松医療センター： 大石和久

浜松医科大学 第一内科/血液浄化療法部： 安田日出夫 / 加藤明彦

- (2) 事務局

〒431-3192

静岡県浜松市東区半田山1-20-1 浜松医科大学第一内科 安田日出夫

Tel: 053-435-2261、Fax: 053-434-9447、E-mail: ysdh@hama-med.ac.jp

(3)募集人員：年間2～3名

(4)採用：事務局との面接を行い決定。

13 その他

若手教育のためのセミナーを開催し、腎臓病学の知識の習得と地域の腎臓内科専門医や若手医師との交流の場となっている。

若手のための腎臓病講座（年3回、浜松市）

Yung Niere の会（年1回、浜松医科大学）